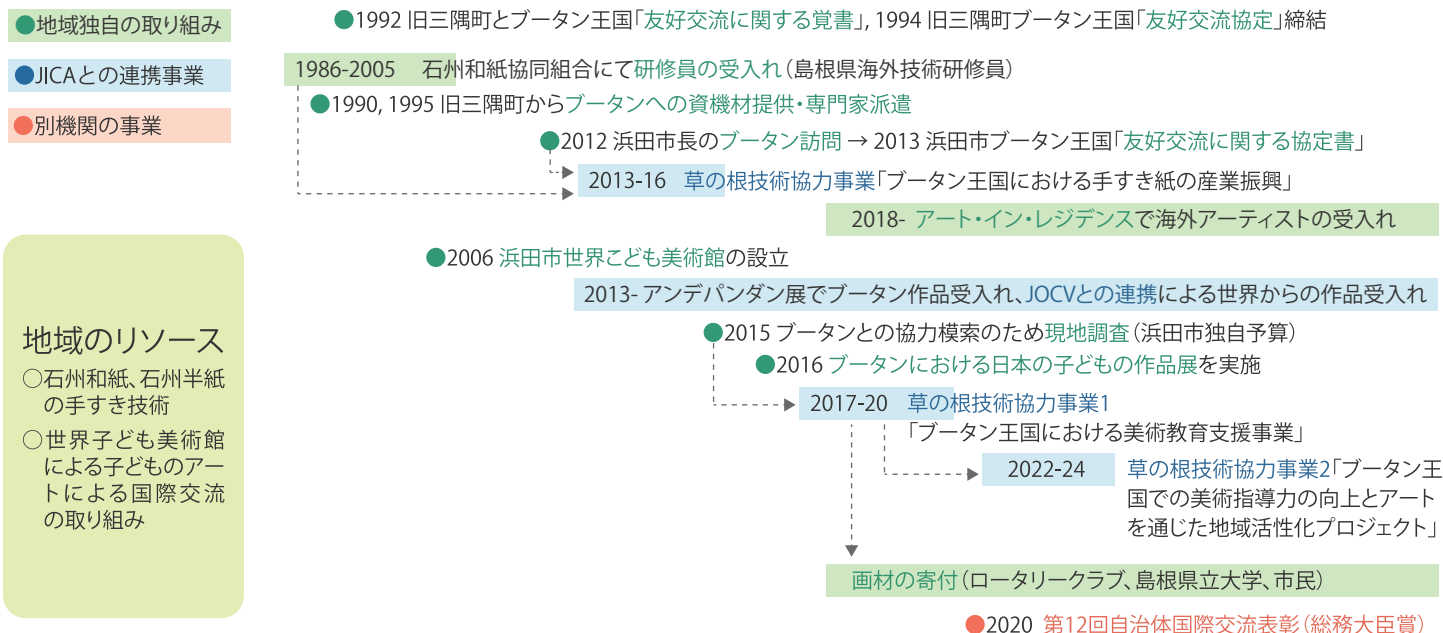


浜田市とブータンの国際交流は、旧三隅町時代の伝統的な手すき紙の技術協力から始まりました。2013年からは、海外のアート作品の受入れやワークショップを実施してきた浜田市世界こども美術館を中心に、美術教育をテーマとしたプロジェクトを実施してきました。JICA草の根技術協力事業を通じた途上国研修員との交流は、地域の住民や子どもたちにとって貴重な交流の場となっており、JICA事業を通じて関係者間の連携も強化されています。

取り組み年表



地域のリソース

- 石州和紙、石州半紙の手すき技術
- 世界こども美術館による子どものアートによる国際交流の取り組み

アートを通して世界とつながる

ブータンとの交流関係

現在の浜田市は、2005年に浜田市、旧三隅町を含む5市町村が合併して誕生しました。旧三隅町では古くから和紙の製造が行われており、石州半紙は国の重要無形文化財、石州和紙は伝統的工芸品に指定されています。この手すき紙の技術交流として、旧三隅町とブータンの交流は1980年代から開始されました。ブータンからの短期・長期研修員の受入れや、資機材の提供、専門家の派遣を実施してきました。研修員受入れの際は、地域住民との交流機会も設定されており、ブータン料理教室の開催やホームステイなどが実施され、町内広報誌を通じて国際交流への理解も高まりました。小さな町が国レベルと交流をするという非常に珍しい事例として注目を浴び、町外への発信機会も多くありました。

浜田市の紙すきによる国際協力

市町村合併後は、一時、交流が途絶えていましたが、2011年にブータン国王夫妻が来日したことをきっかけに、新浜田市として友好交流が再開されました。

浜田市では草の根技術協力事業を3件実施しています。1件目の草の根技術協力事業では、旧三隅町の手すき技術を活かし、ブ

ータンに手すき紙の技術者協会と和紙センターを設立することを目的に取り組みました。近年、石州和紙業界では、海外のアーティストを招いて地域に滞在してもらいながら石州和紙を使った作品づくりを検討するアート・イン・レジデンスを実施しており、JICA事業をはじめとした国際交流の経験がこの活動のベースになっています。

美術教育による国際協力

2件目と3件目の草の根技術協力事業は、浜田市世界こども美術館における美術教育をテーマとした国際協力です。浜田市世界こども美術館では、海外の子どもの作品展示や、海外講師を招いたワークショップなどを開催してきました。海外の子どもの作品展示は、現地にいる海外協力隊等の協力を得て実施しています。草の根技術協力事業では、本邦研修中の学校訪問や、オンライン交流事業など地域との交流を実施しました。また、本邦研修中のロータリークラブとの交流が、後の画材寄付にも繋がっており、その後、島根県立大学からの画材寄付や、市民からの寄付募集に繋がっています。

アートによる交流を通じて、言葉が通じなくても理解し合える経験をするにより、浜田の子ども達の異文化理解を深める貴重な場となっています。

JICA国内拠点との協働	JICAからの出向者	国際協力推進員	多文化共生支援	協力隊の関与
自治体連携協力隊派遣	途上国研修員の受入	協力隊派遣前訓練	草の根技術協力事業	民間連携事業
JICA技術協力との連携	開発教育	その他		

ケース 15 島根県浜田市

地域へのインパクト

地域住民への活力

地域住民との交流や、草の根技術協力事業でブータンの研修員が学校訪問することで、貴重な外国との接点となっており、子どもたちへの刺激、異文化理解に繋がっています。

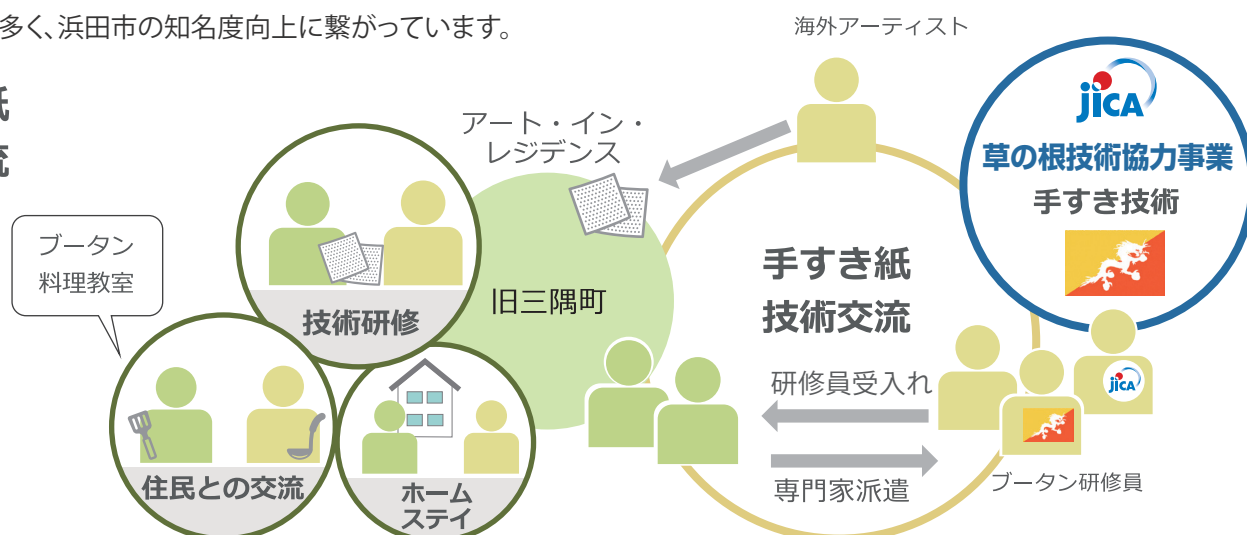
国際対応力の強化

近年、石州和紙・石州半紙の海外への発信やアート・イン・レジデンスなどの活動を行なっていますが、ブータンとの国際交流の経験がこのベースとなっていると考えられています。

知名度の向上

石州和紙や浜田市世界こども美術館による国際協力はメディア取材も多く、浜田市の知名度向上に繋がっています。

手すき紙 技術交流



アートで 国際交流

